



# SOPHIA UNIVERSITY



## 上智大学大学院 総合人間科学研究科 社会福祉学専攻 入試説明会開催

### 大学院で社会福祉を研究しませんか？

社会福祉学専攻(前期・後期)博士課程

#### 7つの特徴

- 1: 定員10人(前期)、3人(後期)に専任教員8人という**徹底した少人数制**
- 2: **社会福祉学の研究法**を基礎から集中して学べる充実した演習(合計8単位)
- 3: **総合大学だからこそ隣接関連専攻科目**も学べる学際的環境
- 4: **研究者養成コース**と**高度専門職養成コース**という二つのコース
- 5: 従来の**福祉臨床系**に加えて実践志向の**政策運営管理系**の充実した教育内容
- 6: 働きながら学ぶ人に便利な「**長期履修制度**」(3年間在籍して2年間の学費)
- 7: 遠距離からの通学にも非常に**便利なロケーション**(JR四ツ谷駅下りすぐ)  
(経済学、法学、社会学、心理学、看護学等の他領域を学んできた人も広く受け入れます。)

### ■入試説明会

大学院担当教授が入試の説明をするとともに  
大学院担当教授の紹介を行います。

**第1回 2013年7月5日(金)**  
午後6時30分～7時30分

**第2回 2013年7月6日(土)**  
午後1時30分～2時30分

※8月1日、3日には入試相談会を開催予定。

#### 【開催場所】

上智大学2号館15階社会福祉学科会議室

### ■担当教員と出席予定

50音順

- [伊藤 富士江 教授](#) 5日
- [大塚 晃 教授](#) 6日
- [岡 知史 教授](#) 5日、6日
- [鎗木 奈津子 助教](#)
- [高山 恵理子 准教授](#) 6日
- [栃本 一三郎 教授](#) 5日、6日
- [藤井 賢一郎 准教授](#) 5日
- [藤井 達也 教授](#) 6日

各教員の詳しい紹介をリンクしています

### ■入試日程

- 9月入試: 2013年9月17日(火) ※出願書類受付期間: 8月1日(木)～9日(金)
- 2月入試: 2014年2月18日(火) ※出願書類受付期間: 1月3日(金)～10日(金)

入試要項は、本学のホームページ大学院入試の項目からダウンロードしてください  
入試に関するお問い合わせは入学センター(03-3238-3167)まで  
過去に出された問題は、入学センターで閲覧することができます。



# 岡 知史 (当事者福祉論、質的調査法)

## ■ 教員プロフィール(指導教員)

[学部教員プロフィールページ\(リンク\)](#)  
[ホームページ](#)  
[Academia.edu](http://Academia.edu)

## ■ 主な大学院担当科目

- 社会福祉研究法基礎演習(コーディネーター)
- 臨床福祉研究法基礎演習(輪講)
- グループワーク研究
- コミュニティオーガニゼーション研究

## ■ これまで指導した主な研究

- 女性アルコール依存症者と自助グループ
- 精神障害者の短歌創作活動のグループワーク
- 精神障害者の社会復帰支援
- 地域包括支援センターの高齢者在宅ケア

## ■ これから入学したいかたへのメッセージ

私はこれまで自助グループ(当事者組織)を中心に研究してきました。自助グループ研究の専門誌、[International Journal of Self-Help and Self Care](#)(米国 Baywood社発行)の編集委員もしています。これまでの研究は、[だいたい科学研究費助成事業データベース](#)にまとめられています。

研究方法としてはもっぱら質的調査法、とくにエスグラフィーを用いてきました。質的調査法を用いたソーシャルワーク研究の専門誌である[Qualitative Social Work](#)(米国Sage社発行)の編集委員、また米国Nova Southeastern Universityが出資している質的調査法のオンラインジャーナルである[The Qualitative Report](#)の編集委員をしながら、研究法の勉強も続けています。

当事者や市民が自発的に進めていく自発的社会福祉が関心の中心ですが、海外の研究者との共同研究の機会も多いので、禅など、日本の文化の特色を活かしたソーシャルワークにも関心をもっています。最近の研究としては、[禅と断酒会の関係を考察した紀要論文](#)、[遺族の自助グループの研究](#)があります。

大学院生、とくに現場経験のあるかたから学ぶことも多く、論文指導は私にとっても学ぶことが多い機会になっています。共に学び合う大学院で、みなさんの入学をお待ちしています！





# 鍋木 奈津子 (保健医療福祉)

## ■ 教員プロフィール(授業担当教員)

[学部教員プロフィールページ\(リンク\)](#)

[TOPに戻る](#)

## ■ 主な大学院担当科目

- ・ 社会福祉フィールドワーク

## ■ これまでの主な研究

- ・ 市民参加型の在宅緩和ケア体制—A組織の方針および体制の長期的な変化の過程の分析を通して
- ・ 緩和ケアボランティアに関する諸外国の研究動向
- ・ 緩和ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの業務実態に関する研究
- ・ 在宅療養支援診療所におけるボランティア—在宅緩和ケアボランティアの参加動機と継続要因の長期的な変化を分析

## ■ これから入学したいかたへのメッセージ

私自身も数年前まで、本学大学院において社会福祉学を専攻しておりました。大学(上智大学の社会福祉学科)を卒業した後は、医療機関や民間企業で勤務しておりました。そこでの経験がきっかけとなり、再び大学院に入学する決意をしました。

大学院では、素晴らしい先生方のもとで、「真理を追究する」研究者としての姿勢を徹底的に指導していただきました。

本学大学院は、学問に集中できる恵まれた環境であると思います。是非、皆様にも、この環境を十分に活用し、知を磨き、良い研究をしていただきたいと思います。



# 高山 恵理子 (保健・医療分野のソーシャルワーク)

## ■ 教員プロフィール(指導教員)

[学部教員プロフィールページ\(リンク\)](#)

[TOP1に戻る](#)

## ■ 主な大学院担当科目

- ソーシャル・ケース・ワーク研究
- 医療ソーシャルワーク研究

## ■ これまで指導した主な研究

- がん専門病院での医療ソーシャルワーカーと看護師の協働:退院援助における医療ソーシャルワーカーと看護師の関わり展開プロセス
- 病院倫理委員会の有機化に向けたソーシャルワーカーの支援:多元的医療倫理を基盤として
- 介護老人保健施設における家族介護の評価の検討とソーシャルワークの支援のあり方:介護に対する肯定的・否定的認識を中心にー
- 周産期医療機関のMSWによる地域関係機関との良好な関係性構築に向けた活動プロセス

## ■ これから入学したいかたへのメッセージ

〈現任ソーシャルワーカーの皆様に〉

現場での実践においては、クライアントとの関わりから課題を得たり、疑問を感じる機会が多いのではないのでしょうか。

「より良い支援につながる対象理解は。」

「私たちはあるべき社会をどんなふうに描けるのか。」

「後輩に対する指導をどのようにしたらよいのだろうか。」など。

現場で生まれた課題や疑問をきっかけにした、新たな知見を模索する方法のひとつとして“研究”があります。そして、この研究の基盤を身につけることが大学院での学びの目標であるといえます。

既に先達が築き上げてきた知識やスキルを伝授することが、現任者を対象とした様々な研修の意味であるとしたら、そのような知識やスキルを生成する過程に参画できるようになることが大学院で意味であるといえます。

上智大学大学院は、現任ソーシャルワーカーの研究基盤づくりを支援します。

- \* 上智大学では、仕事を継続しながら大学院に通いやすい「長期履修制度」を設けています。これは、現任者を対象とした2年分の学費で3年間在籍できる制度です。



# 栃本 一三郎 (社会政策学・福祉経営論・社会福祉発達史)

## ■ 教員プロフィール(指導教員)

[学部教員プロフィールページ\(リンク\)](#)

[TOPに戻る](#)

## ■ 主な大学院担当科目

- 社会福祉政策学
- 福祉経営論
- 福祉政策運営管理研究法基礎演習

## ■ これまで指導した主な研究

- ソーシャルキャピタル論の地域福祉政策・実践への活用の可能性と意義に関する理論的考察
- 在宅福祉サービスを提供するワーカーズ・コレクティブの可能性と限界: 参与観察を通じて
- 離婚後の親権、監護、面接交渉に関する法制度及び社会福祉的制度に関する日米比較研究: こどもの福祉、権利の観点から
- 緩和ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの業務実態に関する研究
- 児童養護施設強羅暁の星園設立の歴史: シャトル聖パウロ修道女会のミッションとしての社会福祉事業に関する一考察
- 近過去の福祉政策の展開と「対人福祉サービス」
- 心身喪失者等医療観察法における医療の必要性からの心身喪失者等の人権擁護の研究
- 登録型ホームヘルパーのライフヒストリー研究: ゴールドプラン以前から勤務する主婦達の「長いかわり」
- 子ども兵の社会的再統合: 国際支援体制と政策課題
- ユニット型介護老人福祉施設におけるユニットリーダーの職場管理における意識
- 労働市場を退出した高齢者の就業: シルバー人材センターにおける事例研究を通じて
- 日本と韓国の介護保険制度比較研究: 韓国におけるケアマネジメント制度導入の可能性と課題
- 課程博士論文: グループホームで暮らす知的障害者のある人とつくる自己決定支援モデル: 参加型調査の試み
- 課程博士論文: 韓国における公的扶助制度の変容と確立に関する歴史的考察: 有能貧困者救済を中心に
- 課程博士論文: ローカル・ガバナンスと参加: 近隣再生政策におけるガバナンス空間への市民とボランティアセクターの参加の分析を通じて

■ [これから入学したいかたへのメッセージは、次のページへ](#)



# 栃本 一三郎 (社会政策学・福祉経営論・社会福祉発達史)

[TOPに戻る](#)

## これから入学したいかたへのメッセージ

福祉系の大学院教育は近年大きく変化しています。たとえば、福祉専門職や看護・介護専門従事者の継続教育としてヨーロッパではEUのボローニャプロセス以降、専門大学修了者にとって大学院の教育はマネジメントや政策理解、そして臨床の科学的説明力の獲得のための継続教育といったことをカリキュラム内容としています。そのなかには現場を変えていく、より良いサービスを提供し、理念・理屈・建前と現実との乖離を一つ一つ臨床や実際のサービスレベルで解消させ、社会福祉領域の建前だけに終わらせることなく理念を実現化させる「福祉開発」も含まれます。いわばソーシャル・イノベーションのための教育なのです。

一方、本来の大学や大学院は学術を教授し、そのための研究や教育のための教育・研究機関です。つまり、基礎的な学力や広く、深い教養力を身につけた者、ないしそれを身につけていないことを自覚し、その重要性を良く認識しているものが学ぶべき学府であります。したがって、そもそも広い意味で社会問題やその解決策について研究することは学術としてそれらを扱うということであり、法則定立科学といわれる経済学や社会学といった学問領域や哲学や社会思想、規範的倫理学などについて知識を有していることが必要です。それが不足していると思うものが誠実に学問として社会福祉の諸問題に取り組む時、初めて、知らないことがあまりに多いということに気づき、学び始めます。大学院で学ぶとはそのようなことであり、そのための場です。したがって、知を育む、明晰さを保持する、教養をそなえたいうで物事を考えられるように訓練を受けるところが大学院であり、教員はそのために院生を指導します。高度専門職コースであれ、研究者コースであれ、福祉臨床系であれ政策・運営管理系であれ、共通して、院の終了後は自立した知識人として処していくものだと思います。そのための修練の場が大学院であり、大学院は学位製造工場ではありません。歴史研究、比較研究、理論研究という学術の醍醐味を経験し、また少なくとも英語以外にドイツ語やフランス語を学び始めることを勧めます。

我が国のいわゆる狭義のソーシャルワーク教育は今大きな曲がり角に来ています。従来のソーシャルワーク教育では広く、一般社会のなかで評価を受けることはないでしょう。

今までの援助技術系と制度といった区別がもはやナンセンスとなっている時代に福祉教育はこのままで良いのでしょうか？

本当の学術として勉強していきたいと思う人に来ていただきたい。一生を通じての滋養を得られるでしょう。



# 藤井 賢一郎 (社会福祉経営学)

## ■ 教員プロフィール(指導補助教員)

学部教員プロフィールページ(作成中)

## ■ 主な大学院担当科目

- 社会福祉経営学

## ■ これまでの主な研究

- 福祉職場における組織行動論研究(動機づけ、キャリア形成、コンフリクトマネジメント、組織社会化等)。
- 福祉現場のリーダーの経験学習と成長に関する研究。
- 福祉サービスの経営者の意識、態度、成長に関する研究
- 社会福祉法人の財務分析、再生産コストに関する研究
- 地域密着型サービス(小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時訪問型サービス)のサービスモデル、経営モデルに関する研究

## ■ これから入学したいかたへのメッセージ

あらゆる商品・サービスは、組織、戦略、マーケティング、財務・会計といったマネジメントの関与なくして、提供し得ません。福祉サービスにおいても同様です。もちろん、福祉サービスは、クライアントとの関係が密接であるなど、一般の財やサービスとは異なる性格を有しています。しかし、こうした特徴は、むしろ、他の一般の商品やサービスのあり方を考える上で、大きなインパクトをもたし、マネジメント領域への貢献も大きいと考えています。

他方、福祉サービスは制度のもとで提供され、サービスの対価の大部分を政府が負担する仕組みです。そのため、政策決定過程についての十分な理解も重要になってきます。

私は、財閥系シンクタンクに勤務し、福祉・介護・医療領域の政策決定に関わる調査・研究に携わりました。また、新ビジネスの立ち上げや事業コンサルティングにも関わってきました。こうした観点から、領域は問わず、マネジメントの視点からの研究や政策決定過程に関わる研究の指導を行ってきたいと考えます。なお、こうした研究の基盤としての基礎的学問(目的によって経営学、経済学、社会学、心理学、政治学、社会政策学、統計学等のいくつか)の習得は欠かせませんので、この面でのアドバイスも行っています。

[TOP1に戻る](#)



# 藤井 達也 (精神保健福祉)

## ■ 教員プロフィール(指導教員)

[学部教員プロフィールページ\(リンク\)](#)

## ■ 主な大学院担当科目

- 精神保健福祉研究
- 精神科ソーシャルワーク研究
- 社会福祉学研究法基礎演習(輪講)

## ■ これまで指導した主な研究

- 初任者精神保健福祉士の成長過程に関する研究: 初任者精神保健福祉士の実践と知識の統合的認識形成プロセス
- 精神科ソーシャルワークにおける「かかわり」形成のプロセス
- 精神保健福祉士の成長に関する研究: 実践現場で精神保健福祉士が経験する成長プロセス
- ストレングス視座から見た精神障害者の地域社会資源: 日本豊島区・韓国マッポの大都市比較研究

## ■ これから入学したいかたへのメッセージ

精神保健福祉の諸課題は、現代社会を生きるすべての人に関係する最重要な課題となってきました。これからは、大学院で学び、研究能力を身につけて、再び現場での実践や政策立案に、研究能力を活用して取り組まれる方が増えると考えます。それぞれの現場で、新しい実践・組織運営・政策が必要になっています。

私は、福祉臨床系で精神保健福祉研究・精神科ソーシャルワーク研究を中心に研究指導に取り組みます。現在のソーシャルワーク実践は、政策に働きかけるマクロ実践も重視するようになっていきますので、精神保健福祉政策についても研究しています。また、現在、伊米比較調査の地域精神保健福祉の研究にも取り組んでいますので、国際的な精神保健福祉研究も進めて行きたいと考えています。

世界の精神保健福祉も、社会の変化や新しいニーズに応える改革に日々取り組んでいます。視野を広げつつ、自分のテーマを深く研究しようとする方の入学を歓迎致します。共に、研究に取り組みましょう。

[TOP1に戻る](#)